

命ある動物の飼い主になるというのは、全てに責任を持つということです

社会生活を営むうえで、犬と一緒に暮らしていくためには、周囲の迷惑にならないよう、飼い犬へのしつけや飼い主のマナーは欠かせません。周囲からの苦情に対しても、誠意を持って対応することが飼い主の責任です。

●吠え声で近所に迷惑をかけない

吠え続けることは、周囲の人にとっては迷惑になりますし、犬にとっても負担になります。吠える理由を見つけ出し、対策を講じることが必要です。

原因 1

対策

音や物に反応して吠える

通行人、車、電話の着信音、チャイムの音

- 外で飼育している場合、人や車が見えない場所に移動する
- 室内で飼育している場合、カーテンを閉めて落ち着く環境にする
- チャイムを鳴らさず、来客には事前に連絡してもらう
- 音に反応しないようしつける

原因 2

対策

留守中に吠える

飼い主がいらない寂しさ（分離不安）

- 散歩や遊ぶなどの時間を増やすなどして、運動量を増やす
- 留守中は好きな遊び道具を用意し、退屈させないようにする
- テレビやラジオなど音をするもので気を紛らわす（録画や録音をして、留守中の犬の様子を確認してみましょう）

原因 3

対策

決まった時間に吠える

餌や散歩を要求する

- 餌や散歩の時間を日によってずらす
- 吠えたからといって安易に犬の相手をしてしない



原因 4

対策

高齢犬がずっと吠える

犬が鳴く（吠える）のは、ストレスが原因かもしれません。犬の心の健康を保つためにも、しっかり対策しましょう。獣医師や訓練士などの専門家に相談することも効果的です。



対策を講じてでも改善しない場合は、専門的なトレーニングを受けることも検討してみましょう

●人に危害を与えない

- 放し飼いは危険なので絶対にしない。
うちの子はおとなしいからなどという言い訳は通用しません。
- 散歩中はリードを外さない。
リードは飼い主さんと愛犬をつなぐ絆。散歩中、リードを外すと人をかんだり、交通事故に遭う危険があります。

犬のリードはシートベルトと同じ。犬の安全も守ります。ロングリードは、犬を制御できず、事故や苦情の原因になります。



●地域を汚さない

- ふん尿で地域を汚さない。
散歩前にトイレを済ませておく習慣をつけましょう。散歩にはフンの回収道具を持参し、もし、散歩中にふんをしたら、必ず持ち帰りましょう。トイレの後はペットボトルの水などで洗い流しましょう。
- 公園などで犬の毛のブラッシングをしない。
動物アレルギーの方もいます。公園などでブラッシングをして、毛をまき散らさないようにしましょう。

愛犬もみんなも見ています。道路は犬のトイレではありません。あぜ道や堤防道など土の地面であっても、草刈り作業やジョギングなど様々な人が利用します。土に還るからとふんを放置しないで！



愛犬を幸せな環境で飼っていますか。

- 暑い日には、熱中症にならないよう、風通しをよくし、日陰に隠れられる環境を作り、水をしっかり飲めるようにしましょう。また、気温の高い日には、わずかな時間でも車の中に残さないようにしましょう。高温の環境に置かないことが、熱中症の最大の予防となります。
- 飼育環境は、糞尿や散らばったエサ等の掃除を徹底し、衛生的な環境に保ちましょう。
- 水やエサの容器は清潔に保ち、新鮮な水がいつでも十分飲めるようにしましょう。
- 爪は伸びすぎる前に切りましょう。
- 病気やケガは放置せず、獣医師の治療を受けましょう。

